



京都市立下鴨小学校 TEL 075-781-0382

校長 安村 俊輔 FAX 075-781-6976

HP <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/shimogamo-s/>

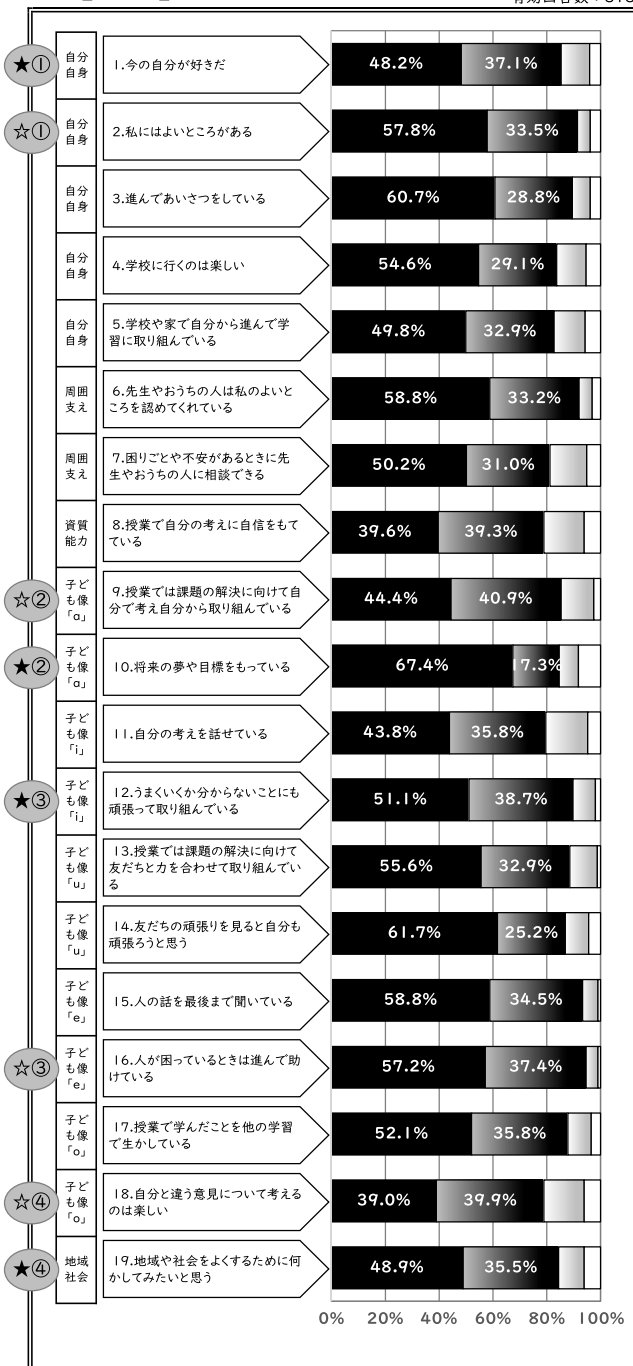


平素は本校教育活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

さて、7月に実施いたしました「『みんなで成長』アンケート」につきまして結果をまとめましたので、みなさまにお伝えいたします。なお、学校運営協議会でも本結果をもとにご意見を頂戴しましたので、その内容も併せて記載しております。本結果をもとにこれまでの教育活動等を振り返り、本校の子どもたちはもちろんのこと、本校に関わりのある方々も含めまして共に「みんなで成長」できる下鴨教育をめざしていきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

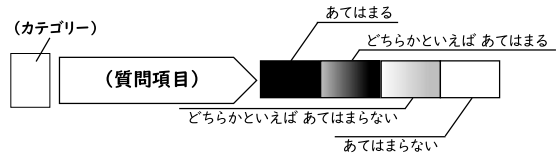
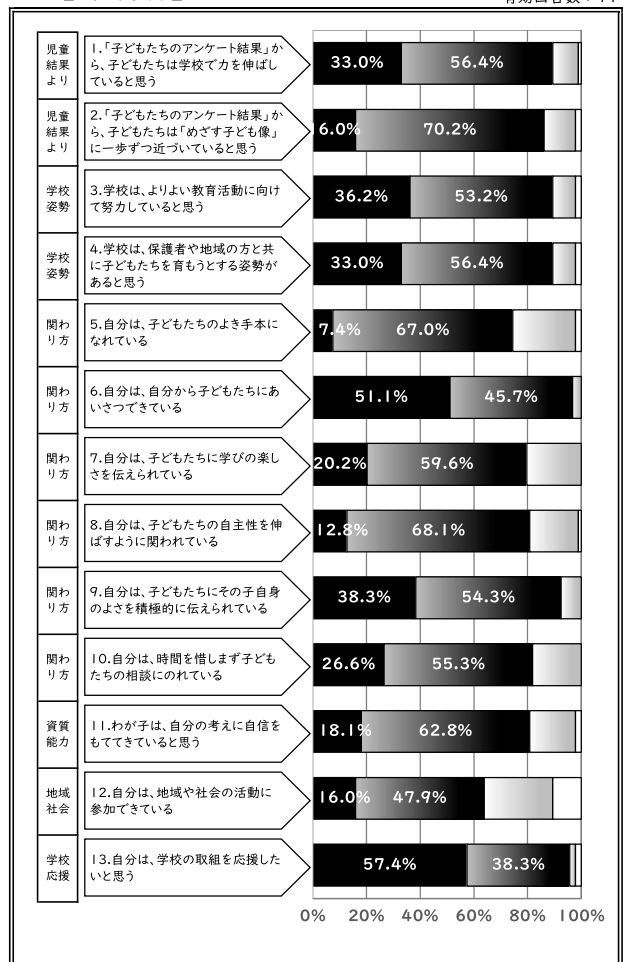
【児童】

有効回答数：313



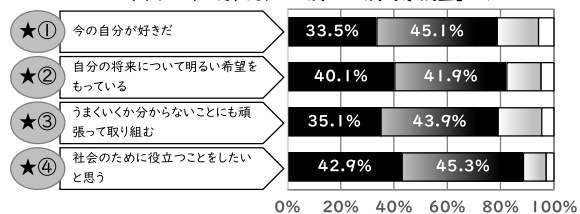
【保護者】

有効回答数：94

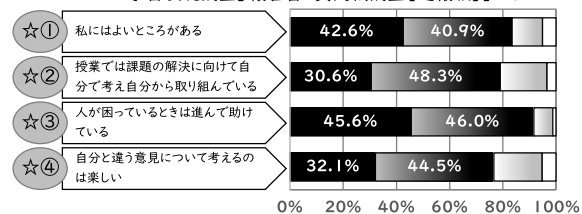


全国的な傾向は…

【参考①】内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」報告書（令和5年3月）内、「10歳～14歳対象調査」より



【参考②】文部科学省・国立教育政策研究所「令和5年度全国学力・学習状況調査」報告書「質問紙調査【速報版】」より



学校教育目標

学びを創造し、
共に挑戦する
子どもの育成

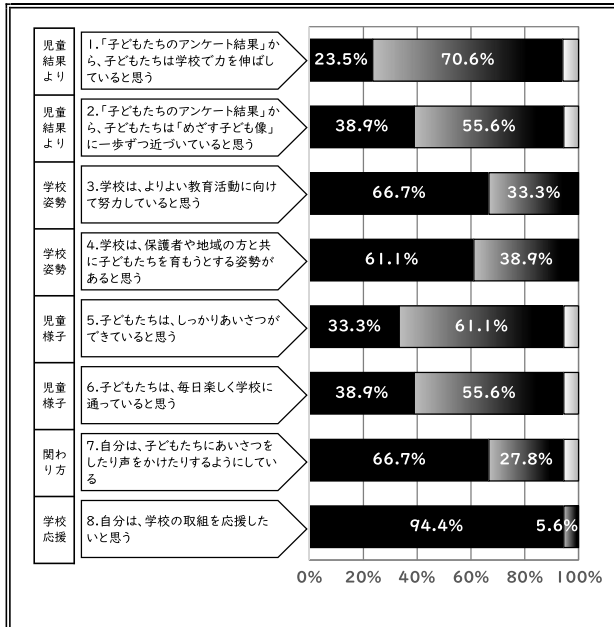
めざす子ども像

下鴨小の「a・i・u・e・o」

- a**mbition : 見通しをもった志のある子
- i**nnovation : 新たなことにチャレンジする子
- u**nity : 共に力を合わせる子
- e**steem : 自分も相手も大切にする子
- o**riginality : 自分らしい学びを創り出す子

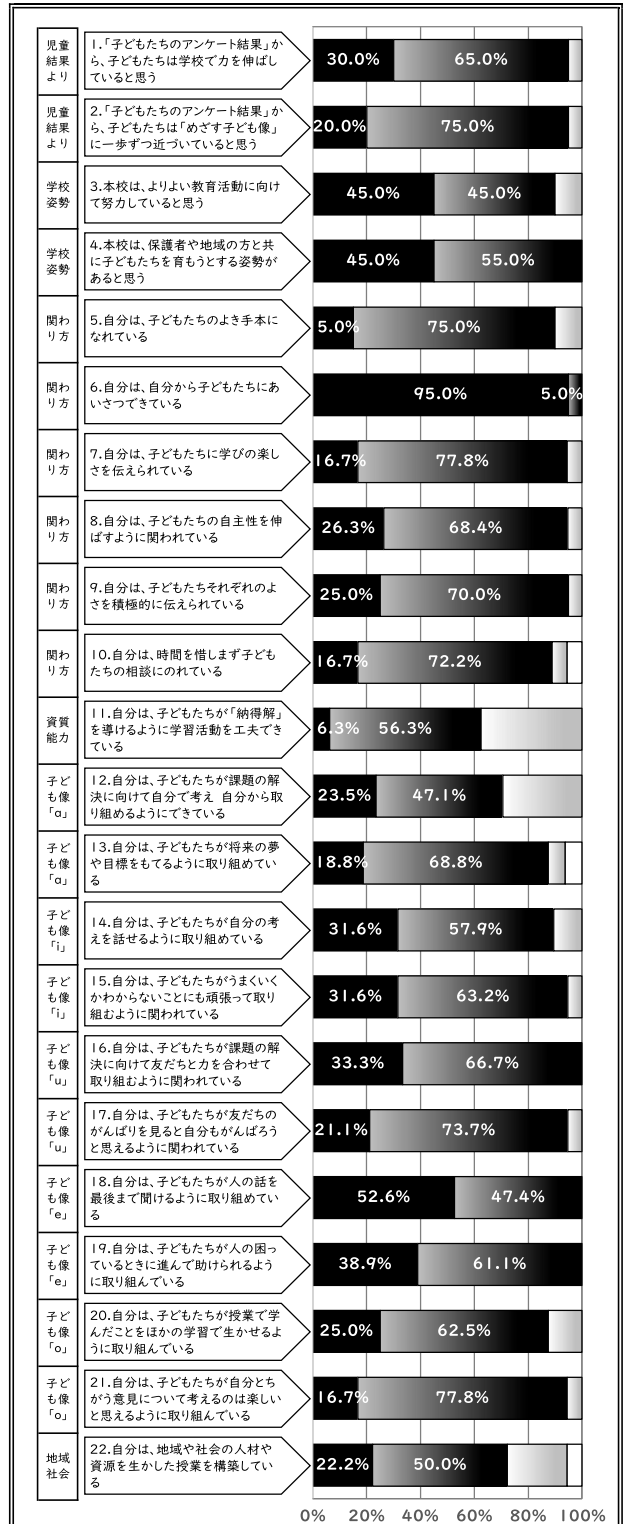
【地域】

有効回答数：18



【教職員】

有効回答数：20



《各アンケート結果より》

児童アンケートより

児童アンケートにおいて、「あてはまる」「どちらかといえば あてはまる」を合わせた肯定的な回答はいずれの項目においてもほぼ80%を越えており、全体的には意識の高さがうかがえました。また、「1. 今の自分が好きだ」や「2. 私にはよいところがある」の質問では【参考①】、【参考②】の全国的な調査結果を踏まえて見てみると、本校の子どもたちの自尊感情は高く、自分自身を大切に思う心が育っているのだと感じます。また、「16. 人が困っているときは進んで助けている」の質問でも肯定的な回答の割合が非常に高かったのも、非常に喜ばしいことと捉えています。もちろんこの【参考①】、【参考②】は調査対象年齢が本校の児童アンケートと合致しているわけではないので単純に比較することはできませんが、「下鴨小の『a・i・u・e・o』」の「esteem: 自分も相手も大切にする子」に子どもたちが迫っているのだと受け止められるのではないのでしょうか。

一方で、「8. 授業で自分の考えに自信をもっている」や「11. 自分の考えを話している」の質問に対して、肯定的な回答が他の質問に比べると低い様子がうかがえます。「18. 自分と違う意見について考えるのは楽しい」の質問についても全国的な傾向と比較して低いわけではありませんが、互いに自分の意見や考えをアウトプットし、互いに刺激し合って新たな学びを得るといった点について、今後はさらに力を注ぐ必要があると考えました。

そこで、授業を中心にして行事等の機会も活用しながら子どもたち自身が自分の考えや思いをアウトプットする機会をまずはつくっていき、集団で学ぶよさを実感できるようにしていきたいと考えています。

保護者・地域アンケートより

「保護者アンケート」中に記述にいただいたご意見等については、11/6(月)～11/10(金)の9:00～17:00まで職員室にて閲覧していただけますので、ご希望の方は職員室にお声かけください。

児童アンケート結果から、子どもたちの自分自身を大切にしたいという思いが見て取れましたが、保護者アンケートの「9. 自分は、子どもたちにその子自身のよさを積極的に伝えられている」の質問において肯定的な回答の割合が非常に高いことから、保護者の皆様方のおかげで子どもたちの自尊感情が高められていると感じています。また、保護者アンケートの「6. 自分は、自分から子どもたちにあいさつできている」や地域アンケートの「7. 自分は、子どもたちにあいさつをしたり声をかけたりするようにしている」の質問においても肯定的な回答の割合が高いことから、保護者や地域の皆様方の意識が子どもたちの他者を大切にする心を育むことにつながっていることがうかがえます。

また、保護者アンケート、地域アンケート共に「自分は、学校の取組を応援したいと思う」の質問に対して肯定的な回答の割合が非常に高く、私たち教職員も非常に心強く励まされる思いになりました。子どもたちをよりよく育むためには保護者や地域の方々のお力添えなしでは成り立たないと考えています。その点からも、保護者の方々や地域の方々、そして私たち教職員が共に手を携え合ってこの下鴨の子どもたちに関わっていきたくと、改めて実感することができました。

アンケート項目で伝えきれない点については記述でお答えいただきました。その中で、朝の登校時は2つの門を開けており校長が交互に立っていますが、校長が立っていない方の校門について人の配置ができないかというご意見をいただきました。これにつきましては、教職員の勤務時間や人数の面から体制を組むことは難しい状況です。そこで、できることならお子様を送ってくださった保護者の方等で時間が許すのであれば、少しの間でも校門付近で他の子どもたちの登校を見守っていただければありがたく存じます。もちろん校長の立っている門で校長と共に子どもたちを迎えていただくことも大歓迎です。保護者の皆様方には、できる範囲でご協力いただければ助かります。

その他の記述では、担任を気遣うお言葉やねぎらいのお言葉、健康面を心配するお言葉もいただきました。そのようなお言葉をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。一方で、その教職員をフォローする学校の体制についてのご意見もいただきました。皆様方にはご心配をおかけして申し訳ありません。子ども一人一人を大切にするためにも、教職員が自身を大切にすると共に互いに支え合える環境でありたいと考えています。校内でも教職員で知恵を出し合い工夫し、子どもたちにとっても地域や保護者の皆様にとっても、そして教職員にとっても「教育の『三方よし』」となるよう、より一層尽力していく所存です。併せて、今年度で創立150周年を迎える本校として、今までの歴史があつての現在だと捉えています。時代と共に変わっていく部分もありますが、150年という長きにわたりこの下鴨の子どもたちを育ててきた本校の歴史に恥じぬよう、私たち教職員一同、邁進していきたいと考えています。今後とも、本校の一番の応援団になっていただきますよう、よろしくお願いいたします。

教職員アンケートより

ここ数年間のコロナによる行動制限から解放され、教職員も子どもたちとのリアルな関わりに喜びを感じていることがこの教職員アンケートの結果からも見て取れる気がしています。一部の質問において「あてはまらない」「どちらかといえば あてはまらない」と回答している者がありますが、これは子どもに直接かかわる教員ではなく、運営を担っている職員の中で直接子どもに関わることがない立場のため、そのような回答をしています。言い換えれば、子どもに関わる立場の者すべてが、肯定的な回答をしているということになります。

この教職員アンケートの結果から課題として見えてくるのは、資質・能力の育成の面です。「11. 自分は、子どもたちが『納得解』を導けるように学習活動が工夫できている」の質問では、肯定的な回答の割合が低い状況でした。本校では今年度から育成を目指す資質・能力を「納得解を導く力」としておりますが、その点において私たちが進めている学習活動は道半ばでありまだまだ頑張っていかなければならないと認識しています。本校の子どもたちがさらに力を蓄え、よりよく成長を遂げていくためにはどのように授業を進めていくのがよいのか、どのように働きかけていくのがよいのかを日々研鑽しています。真面目に、そして実直に。今後も本校の子どもたちのために力を合わせて尽力していきます。

さらには、「22. 自分は、地域や社会の人材や資源を生かした授業を構築している」では肯定的な回答が他の項目と比べると肯定的な回答の割合が低い結果でした。現在も子どもたちの学習活動において地域の方々にゲストティーチャーとしてお話しいただいたり地域の団体として子どもたちの活動を支えていただいたりしておりますが、より一層地域の皆様方のお力をお借りしながら教育活動を展開していきたいと思っております。将来の地域の担い手を育てるという観点からも、引き続きご協力をお願いいたします。

学校運営協議会理事会・開かれた学校委員会からのコメント

今回から、児童へのアンケート結果を先に実施し、その結果を見て、保護者、教職員、地域が回答するという形になりました。全国的な調査と同じ項目を入れることで、下鴨の子どもたちの特徴をより客観的に把握できるようになりました。子どもたちの意識や気持ちを見ることで、保護者、地域、学校の大人も、当事者意識を持って、ともに成長していくことにつながる試みだと思っております。ただ、残念ながら今回の完全オンラインでのアンケートは回答率が低くなっています。大人が子どもたちを見ているのと同じように、子どもたちも大人を見えています。次回はぜひ、より多くの方に回答していただけたらと思います。

結果は全体としてポジティブな回答が多いとはいえ、子どもたちが自分の考えに自信を持って話をする、自分と違う意見を聞くというところはやや低くなっています。自己肯定感や積極性や他者との相互理解をより高めていくため、学校や家庭でのいっそうの取組や働きかけが必要だと感じます。間違いや失敗を恐れて前に出ないのではなく、なぜ間違ったのかを考え、同じ間違いは繰り返さない、次はうまくいくように工夫しよう、という空気を、大人と子どもみんなが醸成していくことが大事だと思います。なお、下鴨の子どもも大人も、自分自身をある程度正確に客観視できるからこそ、低めの結果が出てしまうのであろう項目もあります。あまり細かな数字にはこだわらなくてよいと思います。

行事や給食も含め、完全にではないにしろ学校生活や日常生活がコロナ前に戻りつつあります。学校内外でのさまざまな学びや活動を通して、子どもたちが楽しく充実した日々を送ることができることを願っています。